

人名錄

同 次 長 村井謙一郎
同 次 長 古谷金一郎
同 次 長 大西 一男
同 次 長 井上 中務
同 次 長 中山 中務
同 次 長 吉滿 良吉
同 次 長 堂德清之助
同 次 長 加地 功
同 次 長 村田 春重
同 次 長 加藤 直正
同 次 長 矢島 幸三
同 次 長 境田 三郎
同 次 長 竹鶴 可文
同 次 長 野崎 達雄
同 次 長 小林 範二
同 次 長 山野 清治
同 次 長 藤江 信
同 次 長 吉田 嘉雄
同 次 長 高倉惣九郎
同 次 長 宮崎猪三郎
同 次 長 古賀 健太
同 次 長 南川小四郎
同 次 長 荻田英太郎
同 次 長 宮島 一陽
同 次 長 白川 致治
同 次 長 伊藤金三郎
同 次 長 日野 律郎
同 次 長 淺野 幸一

同 副 長 中倉 東策
同 副 長 橋本 俊彦
同 副 長 窪田 俊彦
同 副 長 關川 進
同 副 長 建元 進
同 副 長 益田昇佐久
同 副 長 益田 三雄
同 副 長 成相 敬
同 副 長 高橋清次郎
同 副 長 西原 民平
同 副 長 稻見彌一郎
同 副 長 中島 慶次
同 副 長 間瀬 三郎
同 副 長 川浪守三郎
同 副 長 木村久太郎
同 副 長 鈴木 宗竹
同 副 長 峯峨 久
同 副 長 沼館助三郎
同 副 長 千賀喜八郎
同 副 長 柳田 鉄三
同 副 長 尾崎 政範

同 副 長 中川 久平
同 副 長 田中順次郎
同 副 長 森脇 秀技
同 副 長 長谷部眞市
同 副 長 種市幸太郎
同 副 長 飯田 實
同 副 長 内田 民治
同 副 長 友虎梅次郎
同 副 長 岡本 勉
同 副 長 渡邊 精一
同 副 長 前田 正晴
同 副 長 牧野 義重
同 副 長 今井 俊照
同 副 長 藤森 賢三
同 副 長 伊谷牛次郎
同 副 長 轉石 恭輔
同 副 長 西村 金藏
同 副 長 近田 惠吉

秋田木材(津別) 榎原清次郎
株式會社 織作伊之助
株式會社 高橋 節雄
帝國製麻會社 清野 新一
北海道拓殖銀行 中村繁太郎
遠輕支店長 伊藤 豊作
留邊藥自動車 梨田 全吾
會社(留邊藥) 小出 貢
製麻會社 酒井 大藏
三井物產留邊藥 川上龜太郎
製材工場 太田 太平
住友鑛山留邊藥 岡村 昌則
太田ベニヤ瀧上 佐々本正基
製作所 岩田喜之助
北海道拓殖銀行 渡邊 照平
網走支店長 林 好次
網走工場專務 柏木榮次郎
網走魚菜卸賣 柏木榮次郎

人名錄

一力無盡會社 安部 貞雄
網走出張所主任 伊藤 勇造
網走自動車會社 松本 義利
北海道銀行 西田 安信
帶廣支店長 高橋 太郎
北海道拓殖銀行 阿部 勇藏
支店長 一宮 亮一
安田銀行帶廣 青木 偵助
支店長 鈴木 廉平
大日本電力會社 吉田庄三郎
岩見澤事務所長 吉田甚四郎
(岩見澤)所長 關川甚四郎
北海道銀行 林 義太
支店長 仲田 仙
北海道殖產銀行 深見松太郎
岩見澤支店長 重山 晉平
日本火藥會社 重山 晉平
岩見澤作業所長 藪 惣七
大沼電氣鐵道 藪 惣七
渡島海岸鐵道 助川 貞利
專務長 助川 貞利
壽都鐵道 烟 金吉

北海道鐵道社長 足立 正
定山溪鐵道社長 金子元三郎
美唄鐵道社長 三谷 一二
旭川電氣軌道 岡野 末男
專務長 中村與三松
膽振鐵道專務 西村 甚助
代表取締役 栗林 徳一
社務長 志賀 智
早來軌道會社 磯村豊太郎
夕張鐵道會社 安田權兵衛
沙流軌道會社 松本健次郎
專務長 中木伊三郎
留萌鐵道會社 窪川 利長
社務長 木村久太郎
北海道拓殖鐵道 神野 清馬
社務長 小島 豊三
北見鐵道專務 相馬 哲平
函館貯蓄銀行 官口 眞
北海道拓殖銀行 官口 眞

北海道銀行 佐藤 潔
第一銀行 中古賀晴太
函館支店長 玉井 富宅
安田支店長 龜山 武七
第五十九銀行 城生勝次郎
函館支店長 齋藤 三郎
北門貯蓄銀行 辻 喜三郎
不動貯蓄銀行 荒川 善作
函館支店長 山田増太郎
帝國電燈會社 一條 豊治
同 川田 豊吉
函館船渠會社 大塚 巖
同 窪田 四郎
日魯漁業會社 窪田 四郎
同 平塚常次郎
同 眞藤慎太郎
帝國電力會社 谷田半次郎
館營業所支配人 谷田半次郎
日本工船漁業 林 源太郎
近海郵船會社 小原 又作
函館支店長 小原 又作
函館製網船會社 岡本康太郎

金森商船會社 渡邊 孝平
小倉倉庫 小倉 孝平
東邦水産(函館) 坂本 作平
西出商會社 西出孫右衛門
渡邊商事會社 渡邊熊四郎
函館運送會社 片谷由太郎
函館水産販賣 末富孝治郎
辨天倉庫 小倉 幸一郎
山崎汽船 山崎 松藏
淺野セメント會社 井原 大輔
社(函館)支店長 德根 吉郎
同(上磯)工場長 小西 貞雄
北海道炭礦汽船 佐藤 謙吉
函館出張所長 佐藤 謙吉
住友炭礦會社 石川 義一
函館出張所長 石川 義一
安田商會社 姫野英之助
函館支店長 中本 省三
三菱鐵業會社 中本 省三
函館出張所長 佐々木健介
北海道瓦斯會社 佐々木健介
函館營業所長 谷 徳太郎
函館運送會社 谷 徳太郎
三井物產會社 小林茂三郎
函館出張所長 小林茂三郎

五九〇

五九一

樺太

樺太廳

長官官房 官 今村 武志
 長官官房 官 山田 容義
 秘書課 長 田中 熊太
 文書課 長 本山 修策
 調查課 長 武藤 公平
 地方課 長 上野 武雄
 度量衡課 長 白井 八州雄
 學務課 長 中澤 信治
 視學官 森川 梅雄
 社會教育課 長 三東 忠之介
 財務課 長 坂本 順次郎
 會計課 長 福島 末治
 土木課 長 奈良部 龜松
 事務官 坂本 只次
 技師 境 清吉
 同 石井 佐賀惠
 同 奧平 義行
 同 八卷 重郎
 同 松野 團治
 同 福島 末治
 遞信課 長

農林部 同 杉本 彌一
 殖民課 長 厚地 法人
 農務課 長 中村 鷹祐
 技師 正見 透
 技師 佐藤 司
 技師 尾澤 清太郎
 技師 市川 三五郎
 技師 新關 恒太郎
 技師 今見 昇
 技師 田畑 司門治
 技師 山岸 亮
 技師 服部 成夫
 技師 可野 信一
 技師 川崎 勝
 技師 馬屋 原敬吾
 技師 鎌田 穰
 技師 千代 間光二
 技師 堀 重三
 警務部 警務課 長 山崎 隆義
 警務課 長 竹森 和一
 警務課 長 木原 秀雄
 警務課 長 黑石 都治
 警務署 警務課 長 中岡 都治
 警務課 長 高橋 重郎
 警務課 長 保安 課長
 警務課 長 木原 秀雄
 警務課 長 黑石 都治
 警務署 警務課 長 中岡 都治

豐原署 長 鹿又 政次郎
 落合署 長 河合 次郎
 元泊署 長 濱田 德太郎
 知取署 長 諸富 榮
 敷香署 長 須藤 庫之介
 大泊署 長 阿部 宗一
 留多加署 長 高杉 定義
 本斗署 長 長谷川 四郎
 眞岡署 長 增水 勘助
 眞岡署 長 江良 潔
 野田署 長 高橋 近一
 泊居署 長 鈴木 長太郎
 惠須取署 長 北村 得三
 支廳及出張所 豐原支廳 長 堀 安次郎
 大泊支廳 長 安田 善次郎
 留多加出張所 長 眞岡 善次郎
 本斗支廳 長 伊藤 英吉
 眞岡支廳 長 河井 智茂
 泊居支廳 長 丹 芳次郎
 眞岡支廳 長 日影 喜助
 元泊支廳 長 古川 武二郎
 敷香支廳 長 薄木 虎二郎
 鐵道事務所 所 長 大島 忠康
 庶務課 長 熊川 知義
 經理課 長 宮原 二紀
 運輸課 長 島田 毅一
 車輻係 長 草野 虎一
 保線係 長 磯野 九一郎
 建設係 長 鈴木 保

豐原驛 長 石淵 良一
 大泊驛 長 猪股 猛
 眞岡驛 長 石川 敏捷
 眞岡驛 長 大久保 伊三郎
 本斗驛 長 原田 龜雄
 落合驛 長 佐々木 兵治
 豐原醫院 長 九鬼 左馬之助
 眞岡醫院 長 中島 忠
 眞岡醫院 長 上原 一郎
 觀測所 所 長 重富 剛策
 落合支所 長 加藤 英一
 眞岡支所 長 山田 幸兵衛
 敷香支所 長 中村 政太郎
 本斗支所 長 波多野 浩
 安別支所 長 中川 晃
 中央試驗所 所 長 三宅 康次
 畜産部 長 奈良部 都義
 水産部 長 村山 佐太郎
 農學部 長 川瀬 逝二
 林業部 長 田中 勝吉
 農業部 長 菅原 道太郎
 畜産部 長 高山 保二
 水産部 長 石井 四郎
 農業部 長 堀 松次

農業部第四科長 坂本順次郎
 水産部第三科長 千代間光二
 林業部第三科長 三島 愁
 庶務課長 田口 稔
 宇遠泊農事 岩本 忠
 試驗支所長 齋藤 春二
 林務署 上野 實意
 豐原署長 坂井 秀夫
 留多加署長 三浦 義幹
 本斗署長 平賀 正巳
 眞岡署長 松澤 敏男
 泊居署長 上村政五郎
 惠須取署長 庄司 彌造
 元泊署長 佐々木文彌
 敷香署長 福島 末治
 豐原局長 井上萬壽夫
 大泊局長 山形 豊吉
 眞岡局長 齋藤安太郎
 泊居局長 大和 榮三
 特定郵便局 鈴木桂次郎
 敷香局長 曾根勘太郎
 留多加局長 渡部 勘治
 本斗局長 柳澤 廣市
 元泊局長 龜谷 忍
 惠須取局長 三浦小四郎
 落合局長 太田 精一
 知取局長
 鶴城局長

人名錄

野田局長 谷川 時藏
 榮濱局長 細入益太郎
 久春內局長 安江 秀一
 中學校 瓜田 友衛
 大泊中學校長 上田 光曦
 眞岡中學校長 谷内 謙
 眞岡中學校長 福山 惟吉
 高等女學校 橫山 賢市
 豐原女學校長 青木益太郎
 大泊女學校長 花田 康三
 眞岡女學校長
 泊居女學校長
 神 社
 樺太神社官司 齋藤富士雄
 豐原神社官司 伴 雄三郎
 亞庭神社官司 山田 信義
 眞岡神社官司 湖上 寛
 樺太地方裁判所 香川 茂正
 所長 池内 一郎
 豐原區裁判所 監督判事 松浦 嘉七
 眞岡區裁判所 判事 益子源四郎
 樺太地方裁判所檢事局

檢事正 片山 拓
 豐原區裁判所檢事局 繩田國太郎
 眞岡區裁判所檢事局 白石 八郎
 檢事 青柳 彌錄
 刑務所 田中 重勝
 樺太支所長
 眞岡支所長
 商工會議所 大野 順末
 大泊 會頭 越川 良造
 眞岡 會頭 大橋德太郎
 豐原 會頭 島田久四郎
 知取 會頭 小林 隆平
 副會頭 太田 鎮雄
 副會頭 吉川繁太郎
 副會頭 稻原 秀行
 其他官署
 稅關 荒關 榮治
 大泊支署長 宮西 義隆
 眞岡支署長 函館地方專賣局樺太出張所
 所長 心 得 諸住源之助
 銀行・會社

樺太製糖豐原工場 有島 健助
 取 締 役 多村 貫二
 同 工場長 原 邦造
 取 締 役 田中 治朗
 取 締 役 梅澤 源吉
 取 締 役 山田 貞雄
 取 締 役 高島菊次郎
 監 查 役 藤野 幹
 監 查 役 齊藤三代吉
 敷香運輸株式會社 齊藤三代吉
 社長取締役 鎌田 正三
 專務取締役 糸井 竹智
 取 締 役 渡邊長四郎
 取 締 役 茂木 文吉
 三井礦山株式會社 戶田 薰一
 川上礦業所長 守田良太郎
 事務主任 廣瀬 英雄
 北海道拓殖銀行 廣瀬 英雄
 豐原支店長
 王子製紙樺太分社 光澤 義乃
 總務部理事 山内 幾馬
 工務部理事 梅澤 源吉
 山林部理事 井村 榮
 山林部 總務係長 根矢龜次郎
 總務係長 新井 又市
 營業係長 加藤清一郎
 會計係長

人名錄

山林部 山出張所 篠原 爲一 大泊出張所 鈴木 要 豐原出張所 鈴木 勇三 落合出張所 菱沼 勇三 知取出張所 谷村 進 眞岡出張所 日比野 肇 主野田出張所 岡田 武雄 泊居出張所 中平 信吉 主惠須出張所 原田 悦治 惠須出張所 今村 俊 炭鐵所 渡邊 孝一 鐵所 末廣 耕三 大泊工場 山本 猪藏 同代理 宇宿 勇輔 豐原工場 中村 茂樹 同代理 山本 省吾 落合工場 龍野 良輔 同事務主任 山内 幾馬 知取工場 水永 毅 同事務主任 長澤 漸 眞岡工場 竹田 智昇 野田工場 秋山 晴雄 泊居工場 金子 三明 同事務係長 高 菊次郎 惠須取工場 相馬 末吉

同代理 植村 永稔 同事務係長 齋藤 孝 日本人網バル株式會社 取締役社長 高島菊次郎 常務取締役 塚越卯太郎 常務取締役 溝口 新平 常務取締役 田中 治朗 取締役 中村金太郎 取締役 鈴木 實 監査 山内 幾馬 監査 栖原 啓藏 監査 安場 保健 樺太電氣株式會社 取締役社長 藤原銀次郎 專務取締役 光澤 義男 專務取締役 高島菊次郎 取締役 田中 治朗 取締役 櫻井久我治 取締役 杉本 孝作 樺太鐵道株式會社 取締役會長 伯爾奧平 昌恭 專務取締役 足立 正 專務取締役 大川平三郎 專務取締役 藤原銀次郎 取締役 田中榮八郎 取締役 田中 治朗 取締役 光澤 義男 取締役 塚越卯太郎 取締役 野依 次郎

取締役 松本 弘造 南樺鐵道株式會社 取締役社長 藤原銀次郎 常務取締役 光澤 義男 取締役 高島菊次郎 取締役 井上 憲一 取締役 足立 正 取締役 打保常次郎 取締役 梅澤 源吉 主事 杉本 孝作 樺太木材株式會社 常務取締役 小林準一郎 取締役 高島菊次郎 取締役 一柳 貞吉 取締役 光澤 義男 取締役 梅澤 源吉 登帆炭鐵株式會社 取締役社長 大川平三郎 專務取締役 栖原 啓藏 專務取締役 田中榮八郎 取締役 塚越卯太郎 取締役 山内 幾馬 株式會社樺太銀行 代 表 板谷 宮吉 樺太拓殖鐵道會社 代 表 黑瀬 寅吉 西谷運輸會社 代 表 本井 幸吉 大泊倉庫會社 代 表 越川 良造

五九四 樺太鱗光會社 代 表 安藤五右衛門 大泊酒造會社 代 表 加藤米次郎 北海道拓殖銀行 大泊支店長 木下 武彦 大泊魚采會社 代 表 杉原 清助 樺太共同漁業會社 代 表 平塚常次郎 大泊演藝會社 代 表 坂井 久二 楠溪百貨廉賣所 代 表 永井仁太郎 大泉合同族合資會社 代 表 大泉 卯八 井上運送合資會社 代 表 秋山彌穗造 木下製造合資會社 代 表 木下 信市 合資會社山田田島組 代 表 田島 勇吉 楠溪信託合資會社 代 表 大泉 昌三 合資會社藤田組 代 表 藤田 將 合資會社南樺物產商會 代 表 川合 堅次 大泊乘合自動車會社 代 表 古田要次郎

人名錄

大泊市街乘合自動車商會 代 表 室山福次郎 株式會社菊谷組 代 表 菊谷丑之助 昭和信託會社 代 表 堂前 外吉 株式會社大泊見番 代 表 中島 金治 大泊興業會社 代 表 北能喜代松 樺太漁業振興會社 代 表 黑石 鐘吉 株式會社森田商會 代 表 扇田 彦助 大泊無盡株式會社 代 表 鹽田 源次 北日本汽船會社 代 表 田邊 貞造 樺太寒天合資會社 代 表 成田英三郎 合資會社橋本自動車商行 代 表 橋本橋太郎 合資會社瀧商店 代 表 瀧 作太郎 大泊酒造合名會社 代 表 橋爪 茂美 大野商事合名會社 代 表 大野 順末 株式會社北海道拓殖銀行 眞岡支店長 嶋目 克己

樺太相互無盡株式會社 代表取締役 江端 駒吉 合名會社三藤森吳服店 長 藤森 正隆 合資會社山本商店 長 山本市太郎 樺太郵船株式會社 長 佐藤 米吉 株式會社眞岡見番 長 高田佐一郎 樺太電氣株式會社 長 花井正太郎 日露開運株式會社 長 濱谷常五郎 眞岡倉庫株式會社 長 田中惣左衛門 辻商事株式會社 長 辻 清太郎 合名會社小森商店 長 小森良三郎 眞岡土地建物株式會社 長 江端 駒吉 株式會社眞岡合同運送店 長 大多喜喜藏 樺太產業株式會社 長 奧村 又雄 合資會社高田家 高田佐一郎 株式會社三井金物店 三井藤太郎 眞岡軌道株式會社

煙木仁三吉 株式會社大印眞岡魚菜市場 長 木谷留次郎 株式會社畑木商店 畑木二三吉 合資會社白井組 長 白井 幾風 合資會社樺太養狐場 長 小森仁三郎 本斗魚糧株式會社 取 締 役 村山 猛士 東洋ベニヤ株式會社 (惠須取)社長 中村 司 本斗海陸運輸株式會社 長 越川 良造 株式會社本斗郵船組 長 長雄 倉松 本斗市場株式會社 長 齋藤 正隆 海馬水産株式會社 (本斗)社長 日日 重雅 本都無盡株式會社 (本斗) 奧野長次郎 町村長・町村會議員 町村長 須賀清次郎 高橋彌太郎 須賀清次郎 渡邊與惣吉 田中 省三 熊川 知義

五九五 太田 鎮雄 柳本徳次郎 關 拾六 入江 岩吉 的場岩太郎 福富 清重 氏家 政治 佐々木三之介 四日 榮造 井坂 林平 水戸部日出吉 上田 一郎 豐原郡豐北村 村 長 大場節太郎 寺井 憲雄 中井戸芳太郎 川畑 勘造 町田 房藏 河野 由松 藤林 俊基 田口 稔 上野 君平 高橋源左衛門 小原 等 金高 勘六 和田 逸郎 豐原郡川上村 村 長 守田良太郎 北島守衛門 山口百重郎 島崎 禰 加藤 榮藏 今井鴻一郎 北田 初藏 川中 福治 石川 象吉 高橋熊太郎 守田良太郎 谷口賢太郎 本山 昂 榮濱郡落合町 町 長 水島 與

- 山崎金太郎 井上軍治郎
- 里郷 孝三 菊池嘉龜雄
- 花上 常松 野川勝磨
- 三浦 彌市 安部永太郎
- 鈴木 彦作 菅原善左衛門
- 渡邊 一 有海 松市
- 高橋 彦作 今金 四郎
- 岩井 康 佐野 常正
- 佐藤 義孝 片平憲治郎
- 筒井 秀治 小西仁三郎
- 宮下 義孝 清水 喜平
- 榮濱郡榮濱村 池野寅次郎
- 細入益太郎 鈴木守次郎
- 木村 九一 遠藤 吉藏
- 青木吉太郎 竹内松次郎
- 林 縫五郎 前川 乙吉
- 高橋喜代吉 高橋專三郎
- 吉岡 佐平
- 榮濱郡白縫村 和藤藤太郎
- 佐藤 修平 柳屋 武雄
- 井上勝治郎 鈴木增三郎
- 杵淵 竹藏 岩淵 清次
- 菅原 兵作 河原仁太郎
- 内藤 兵作 柳沼 才二
- 大泊郡大泊町 小瀧四郎五郎
- 大野 順末 寺澤運治郎
- 瀧口松太郎 坂倉 敏雄
- 山内 榮磯
- 竹下 正雄
- 本山 好松
- 梶 榮太郎
- 井田 良三
- 越川 良造
- 小笠原源次郎
- 岡野 啓朔
- 吉川 平八
- 神代 正治
- 室山福次郎
- 早川權兵衛
- 半田 馬吉
- 大泊郡千歳村 石井德一郎
- 保古 重信
- 松村 豊吉
- 吉田茂四郎
- 番場 長八
- 本多松次郎
- 菅野 岩藏
- 大泊郡深海村 矢口 長藏
- 佐々木豐喜
- 長尾竹五郎
- 德澤 吉英
- 田中豊太郎
- 坂本三太郎
- 榊 林之助
- 長濱郡長濱村 泉 嘉七
- 戸塚金治郎
- 水野 四郎
- 辻 末次郎
- 種田 徳彦
- 熊谷 剛策
- 中村久五郎
- 高島一二七
- 川尻 敬助
- 秋山彌穂造
- 田邊庄次郎
- 尾形市兵衛
- 白岩 龜二
- 石井德一郎
- 佐藤巳四郎
- 木村 恒藏
- 肥田 政彦
- 馬淵吉五郎
- 菅原 安藏
- 松浦 庄助
- 横内豊次郎
- 會見市太郎
- 植村文之丞
- 梅村 金藏
- 佐々木和三郎
- 泉 嘉七
- 今田 重平
- 田中龜千代
- 磯部 芳藏
- 高島彌太郎
- 松田 政二
- 今 由松
- 長濱郡遠淵村 近藤 民藏
- 福本甚太郎
- 佐藤 海助
- 小西 直
- 大宮長四郎
- 石戸德太郎
- 篠田長次郎
- 長濱郡知床村 高橋安兵衛
- 渡邊彦次郎
- 經澤十之助
- 後藤 清作
- 島山東一郎
- 坂本 力
- 小田 善六
- 富内郡富内村 山本 秀幾
- 濱野 志道
- 佐藤 留吉
- 岡田八市郎
- 齋藤 信平
- 岡林 只八
- 田代 源吾
- 森山佐太郎
- 荒木 福藏
- 寺澤 太七
- 牧野金五郎
- 齋藤 留吉
- 村松輝太郎
- 近藤 民藏
- 和泉外次郎
- 村元圓次郎
- 篠田 莊助
- 南 石太郎
- 隼野重太郎
- 香賀我部頼良
- 鈴木 幸多
- 松本佐太郎
- 齋藤 帶男
- 飯沼 羽市
- 相川喜八郎
- 阿部 龜吉
- 留多加郡能登呂村 高橋雄之助
- 豊下鐵之助
- 黒澤 清治
- 六田作次郎
- 福島 直藏
- 時田 兼吉
- 留多加郡留多加町 會澤 武夫
- 片山 貞
- 鈴木桂次郎
- 山下 梅司
- 下濱仁三郎
- 川田 守與
- 宇城 文六
- 鈴木庄之進
- 佐野政太郎
- 工藤 岩吉

- 藤森 正隆 花田増治郎
- 藤田淺五郎 荒岡弓之助
- 米山 清治 安田 作啓
- 高橋 卓 加藤悌吉郎
- 石井 宗男 庵原英一郎
- 渡邊 直次 畑中 義朝
- 合田 淺吉 坪田重太郎
- 松村 重利 佐藤鐵太郎
- 大谷泰治郎 梅木 宥善
- 森塚 源善 山代新左衛門
- 廣瀬豊太郎 渡邊 伯藏
- 本斗郡内帆村 種部 長藏
- 山崎兵次郎 菱沼 橘
- 笹島平太郎 野村 喜市
- 常包 恒太 木村萬次郎
- 後藤 弘治 佐久間重次郎
- 柳谷隆太郎 池田 彊
- 坂井忠一郎
- 本斗郡好仁村 三浦 義男
- 藏本 米藏 辻森 駒吉
- 石田 常勝 庄内利兵衛
- 大久保卓三郎 森井 半造
- 鈴木與太郎 猪原太一郎
- 齋藤源之助
- 本斗郡海馬村 葛岡 丑吾
- 村 長 河端清三郎
- 橋本 忠雄
- 眞岡郡眞岡町 吉江友之進
- 眞岡郡眞岡町 木谷留次郎
- 眞岡郡眞岡町 猪股 徳平
- 眞岡郡眞岡町 竹田 智昇
- 眞岡郡眞岡町 由田與三吉
- 眞岡郡眞岡町 菅原 勇
- 眞岡郡眞岡町 合田 亮三
- 眞岡郡眞岡町 菅井 鶴吉
- 眞岡郡眞岡町 上山 音吉
- 眞岡郡眞岡町 江端 駒吉
- 眞岡郡眞岡町 新井 勇司
- 眞岡郡眞岡町 本間 正藏
- 眞岡郡眞岡町 笹森梅次郎
- 眞岡郡眞岡町 太田 長吉
- 眞岡郡眞岡町 平野 周吉
- 眞岡郡眞岡町 川村 初藏
- 眞岡郡眞岡町 瀧澤由太郎
- 眞岡郡眞岡町 眞岡郡蘭泊村 石井 四郎
- 眞岡郡蘭泊村 河中慶次郎
- 眞岡郡蘭泊村 佐久間喜四郎
- 島田 定一
- 若松 榮吉
- 藤田 忍
- 井本熊治郎
- 塗師岡松太郎
- 山口三之助
- 柴田 民造
- 濱谷常次郎
- 宮本 留吉
- 川島哲太郎
- 阿部 寅七
- 相馬 春治
- 藤森 朗澄
- 鈴木虎太郎
- 川村 三郎
- 吉田 源藏
- 佐藤治郎太
- 上口市太郎
- 賀古 嘉吉
- 竹浪 兼一
- 菅原 俊吾
- 半澤 藤吉
- 田村勝之助
- 加藤 直藏
- 内館藤太郎
- 高野 清晴
- 竹内正午郎
- 清水榮次郎
- 工藤 豊吉
- 春塚與市郎
- 眞岡郡清水村 山口榮太郎
- 眞岡郡清水村 佐々木藤太郎
- 眞岡郡清水村 吉田 豊治
- 眞岡郡清水村 三宮菊三郎
- 眞岡郡清水村 松原庄次郎
- 眞岡郡清水村 國木 政雄
- 眞岡郡清水村 松本 重明
- 眞岡郡清水村 佐藤 宅麻
- 眞岡郡清水村 佐藤 誠
- 眞岡郡清水村 牛渡 龜子
- 眞岡郡清水村 小笠原新次
- 眞岡郡清水村 小野 豊實
- 眞岡郡清水村 川島 孝一
- 眞岡郡清水村 山本 儔
- 眞岡郡清水村 佐藤 卯吉
- 眞岡郡清水村 長谷川又次郎
- 眞岡郡清水村 佐藤才之進
- 眞岡郡清水村 前畑幾次郎
- 眞岡郡清水村 玉置 一郎
- 眞岡郡清水村 深本 米藏
- 野田郡小能登呂村 菅野 省三
- 野田郡小能登呂村 葛西菊太郎
- 野田郡小能登呂村 堀川 弘輝
- 野田郡小能登呂村 細川兵次郎
- 井上 繁晴
- 佐々木卯平
- 淺川 喜八
- 泊居郡泊居町 寺崎 治作
- 泊居郡泊居町 森 一保
- 泊居郡泊居町 高 菊次郎
- 泊居郡泊居町 村井喜代治
- 泊居郡泊居町 榎本富太郎
- 泊居郡泊居町 板垣外次郎
- 泊居郡泊居町 三宅 俊藏
- 泊居郡泊居町 川崎 吉松
- 泊居郡泊居町 半澤十二郎
- 泊居郡泊居町 柳本由次郎
- 泊居郡泊居町 岡山英次郎
- 泊居郡名寄村 穴田龍太郎
- 泊居郡名寄村 河野 善次
- 泊居郡名寄村 石塚 勝治
- 泊居郡名寄村 和田 十助
- 泊居郡名寄村 飯野 亮三
- 久春内郡久春内村 保知 清吉
- 久春内郡久春内村 天滿次三郎
- 久春内郡久春内村 宮田 鶴嶺
- 久春内郡久春内村 小林 吉藏
- 引地留四郎
- 堀川 弘政
- 立仙 竹吉
- 小原 正義
- 五島 正一
- 藤卷茂四郎
- 大居政次郎
- 丸茂 英賢
- 石川默治郎
- 魚谷榮次郎
- 三上東九郎
- 鈴木 清二
- 金田 要吉
- 後藤藤太郎
- 金山 勤藏
- 舟生 秀吉
- 赤妻林治郎
- 三浦作次郎
- 生駒 三藏
- 成兼熊之助
- 宮原小七郎
- 波間萬次郎
- 新妻富次郎
- 玉水萬次郎
- 柳瀬 秋市

人名録

- | | | | | | | | |
|---|---|---|--|--|---|---|---|
| 中村 忠作
佐々木孫右衛門
佃 佐市
西田幸次郎 | 澤田 直造
宮崎 温
中川 爲治 | 大泉長太郎
佐藤英治郎
三浦 善作 | 中島 由吉
千葉 隆昭 | 富山 巖
神 謹三 | 齊藤三代吉
秋野 豊次
岸 彌太郎 | 糸井 勝則
山口 善之
仲屋 常吉 | |
| ○久春内郡三濱村
長
佐藤 義一
江藤正太郎
矢戸健次郎
山口 藏吉
乾 猛雄
小黒勝太郎 | ○名好郡名好村
長
鶴見才三郎
岩瀬源三郎
田代喜代治
泰 學助
村田宇一郎
菊田 雄藏 | ○元泊郡元泊村
長
飯塚健太郎
津田八太郎
辻畑 圓治
菅原平三郎
太田福次郎
澁田昌太郎
齋藤 省平
齋藤 一男
山田 準造 | ○元泊郡知取町
長
大村 健彦
高月 茂
水永 毅
齋藤寅二郎
宮本 約翰
一戸 要吉
坂本 勇平
三浦 運吉
金子 熊治
森元與三吉
森本 龜次
豊田徳五郎
朴 昌 俊
植田 誠一 | ○敷香郡敷香町
長
五十嵐 勇
乳井 善藏
千葉 常雄
茂木 文吉
山口 寅造
佐藤 政雄
佐々木親次
福田 與吉 | ○敷香郡泊岸村
長
中井 武雄
千葉 中
柳田源一郎
大野善太郎
上原 繁樹
溝淵 與八 | ○敷香郡内路村
長
西山 一郎
松原 良吉
藤川 力藏
武井 民雄
齊藤 關松
工藤 功 | ○散江郡散江村
長
田森 勝彌
佐藤 喜雄
保田 藤作
寒藤松太郎
高橋 覺
中本 利一 |
| ○名好郡惠須取町
長
稻垣 敏雄
黒澤啓太郎
小田 正作
前島善之助
小林末太郎
三輪 操
宮本康太郎
倉橋 甚一
清野 繁司 | ○元泊郡帆寄村
長
高平 春雄
坂本作次郎
村形三九郎
小山 鼎 | ○元泊郡元泊村
長
山越和四郎
野畑 庄吉
片岡喜蘇雄
篠原 良衛
成松久次郎
岸 兼吉
島中與太郎
篠崎 喜一
宮野長三郎 | ○敷香郡敷香町
長
曾我浦三郎
吳 鶴 伊
兒玉八之丞
吉岡 信平
吉岡 信平
柏木 藤吉
千葉長兵衛
作佐部 蔚
島谷榮二郎
陳 裕 福 | ○敷香郡泊岸村
長
柳田源一郎
大野善太郎
上原 繁樹
溝淵 與八 | ○敷香郡内路村
長
西山 一郎
松原 良吉
藤川 力藏
武井 民雄
齊藤 關松
工藤 功 | ○散江郡散江村
長
田森 勝彌
佐藤 喜雄
保田 藤作
寒藤松太郎
高橋 覺
中本 利一 | |

五九八



セイロン種・國産
トリス紅茶

御一人分の適量は茶匙
にトリス山盛り一杯!

可愛がられてトリスが育つ
床しい喫茶の風習に
染む同胞に守られて!



株式会社 壽 屋

磨歯グラク

チューブから出る雪白のリボン！
微細な粒子と最適の濃度！
快よい刺戟が齶らす爽涼感！
しかもその薬用的効果は絶大！
口中清掃作用又百パーアセント！
絶対にムシ歯や歯痛を防ぐ
真に理想的の純良歯磨き！！



北海道樺太年表

皇紀	西曆	年代	略	史
三三九	六九	齊明天皇五年	阿部比羅夫蝦夷を討ち、郡領を後方羊蹄に置く	二〇二 一四五 文十七年 蛤刺士(樺太)の會長銅雀臺の瓦硯を獻ず
三三六	六六	養老二年	渡島蝦夷出羽蝦夷と共に都に上り馬を買す	二〇五 一四八 大明五年 大館の主下國恒季暴戻家臣の爲めに殺さる
三三三	六三	延暦二年	渡島蝦夷入朝す、其の貢獻の獸皮を私に買取る禁制を嚴示す	二〇八 一四五 蝦夷蜂起宇須岸(函館)外二館を陥る
三三〇	六〇	貞觀十一年	渡島蝦夷叛き船に乗じ、秋田、飽海二郡を侵略す	二一一 一四二 武田光廣上國より大館に移る、改めて徳山と稱すマ諸國商船の税を納む
三二七	五七	元慶三年	渡島蝦夷酋長百三人、種族三千人を率ゐり秋田城に到り聖化を歸慕す乃ち之を勞擾す	二一四 一三五 蝦夷蜂起殺傷多し
三二四	五四	文治五年	藤原泰衡滅亡し其の將士蝦夷地に逃るゝものありマ源義經蝦夷地へ渡れりとの説あり	二一七 一三八 徳山城火災に罹り歴代の寶物多く焼失す
三二一	五一	建保四年	鎌倉幕府盜賊を捕へ蝦夷地へ放つ	二二〇 一四一 彌崎慶廣上京し豊臣秀吉に謁し蝦夷島主を以て待遇せらる、是より安東氏の配下を脱して獨立すマ此時代より近江商人松前に往來す
三一八	四八	永仁四年	僧日蓮の高弟日持上人渡來	二二三 一三八 徳山城の南に新城を築く福山城である
三一五	四五	嘉吉三年	下國盛季戦敗し津輕より蝦夷地に逃る	二二六 一三五 東部海嘯夷民死する者多し
三一二	四二	亨徳三年	下國政季武田信廣等と蝦夷地に渡る	二三〇 一三〇 東部楚湖大澤砂金を出す之れより各地に砂金を産す
三〇九	三九	康正二年	蝦夷蜂起掠殺を擅にす	二三三 一二七 下國舍人を沖ノ口奉行となす
三〇六	三六	長祿元年	蝦夷猖獗諸館を陥る武田信廣大に蝦夷を破る	二三六 一二四 封内の里程を定む
三〇三	三三	應仁二年	飢饉の爲め死者多し	三三九 一三七 村上掃部左衛門をして封内を巡行せしめ、はじめて地圖を作る
三〇〇	三〇			三四二 一二〇 福山城大火累代の文書多く亡ぶ
二九七	二七			三四五 一二七 知内金山に於て吉利支丹宗徒百六人を捕へて斬首す
二九四	二四			
二九一	二一			
二八八	一八			
二八五	一五			
二八二	一二			
二七九	九			
二七六	六			
二七三	三			
二七〇	〇			

北海道樺太年表

二四〇〇	寛永十七年	内浦岳(駒ヶ岳)噴火、近海津波の爲め溺死するもの七百餘人	二四〇三	寶曆三年	麻疹流行す
二四〇一	同十八年	和蘭船厚岸に入る	二四〇四	同四年	船を遣し國後土人と交易を開く
二四〇二	同十九年	痘瘡流行死者多し	二四〇五	同五年	露人北千島に來り住居すとの報松前に至る
二四〇三	同二十年	吉田作兵衛をして航して沿岸を巡り地圖を作らしむ	二四〇六	同六年	幕府人を遣し金山を點檢す
二四〇四	同二十一年	有珠岳大いに噴火す	二四〇七	同七年	露船得撫に來り越年す有珠岳大に噴火す
二四〇五	同二十二年	染退の會長シヤクシヤイン亂を策す	二四〇八	同八年	露人霧多布に來り交易を請ふ
二四〇六	同二十三年	江差檜山を開く	二四〇九	同九年	痘瘡流行す
二四〇七	同二十四年	徳川光圀大船を遣し石狩に至る	二四一〇	同十年	得撫大震津浪を起し露船盪漂して山へ上る
二四〇八	同二十五年	西蝦夷地痘瘡流行す	二四一一	同十一年	工藤平助赤蝦夷風説考を著し幕府に上る
二四〇九	同二十六年	大船を作り霧多布に航せしむ	二四一二	同十二年	幕府吏を遣し蝦夷地を調査す▽林子平三國通覽圖説を著す
二四一〇	同二十七年	秋より飢饉福山に於て粥を作り二萬餘人を救ふ▽飛騨屋久兵衛はじめて蝦夷松を伐採移出すと云ふ	二四一三	同十三年	最上徳内擇捉に於て露人と會し彼の情況を探る▽普請役下大石逸平樺太を調査す
二四一一	同二十八年	新井白石蝦夷志を著す	二四一四	同十四年	國後の土人等亂を策す▽幕府は最上徳内、和田兵太夫を樺太に遣し巡檢せしむ
二四一二	同二十九年	幕府の探薬師來る	二四一五	同十五年	樺太に運上屋を設く▽松前西部の民騷擾す
二四一三	同三十年	擇捉、國後の會長松前に來貢す	二四一六	同十六年	露人根室に來り漂民幸太夫を遣し交易を請ふ▽最上徳内等樺太を視察す
二四一四	同三十一年	幕府人を遣はし金銀山を検せしむ	二四一七	同十七年	幕府石川忠房等を遣し露人を松前に引見す
二四一五	同三十二年	大島噴火西海岸津波あり溺死者千四百六十七人	二四一八	同十八年	幕府吏を遣し蝦夷地を巡檢せしむ
二四一六	同三十三年	加藤嘉兵衛を樺太に遣す	二四一九	同十九年	幕府蝦夷地を直轄し道路を開き會所を置き請負人を廢し開拓を計畫す▽七月高田嘉兵衛擇捉の航路を開く

二四二〇	寛政十二年	伊能忠敬東蝦夷地を測量す▽近藤守重等擇捉を開拓す	二四二三	弘化三年	松浦武四郎醫師の僕となり樺太に至る
二四二一	同十三年	松平忠明、石川忠房等蝦夷を巡視し下僚を派して得撫樺太を視察せしむ▽樺太六箇場所を村並とす	二四二四	同四年	幕府松前藩に命じ築城せしむ
二四二二	同十四年	蝦夷奉行を設く改めて箱館奉行となす	二四二五	同五年	露兵樺太楠溪に據る翌年退去す有珠岳噴火す
二四二三	同十五年	露使レサノット交易の請を許されず樺太アニワ灣を視察し勸察加に至る▽東蝦夷地に三寺を建つ▽函館近郷開墾▽西部熱病流行夷人死する者五百餘人	二四二六	同六年	幕府堀織部正等をして蝦夷地を巡視せしむ▽幕府神奈川條約を結び米國船に薪水食料等を供給せん爲め下田箱館二港を開くに決す▽米國水師提督ペルリ箱館に來る▽箱館奉行を置く
二四二四	同十六年	露西亞亞米利加商會員ホーストフ等樺太久春古丹を焚掠し富五郎等四人を捕へ去る	二四二七	同七年	幕府蝦夷地を直轄し開拓を計畫す
二四二五	同十七年	幕府西蝦夷地を改めて全蝦夷地を直轄す▽露人擇捉、樺太、利尻に冠す▽函館奉行を改めて松前奉行とす▽樺太守護に當れる幕士松田傳十郎をして二百の兵を率ゐてシラマシに駐屯せしむ▽樺太を改めて北蝦夷と稱す	二四二八	同八年	神威岬以北に婦女の入るを許す庶民續々其以北に移住す▽本年より翌年に跨り西蝦夷地の各所に道路を開く▽駒ヶ岳噴火
二四二六	同十八年	松田傳十郎、間宮林藏樺太を巡檢す	二四二九	同九年	露人樺太西海岸ナヨロに來り家を建つ▽松川辨之助等樺太東海岸の開拓に著手す
二四二七	同十九年	間宮林藏滿洲に入る	二四三〇	同十年	函館開港▽樺太在住栗山太平同島北部を巡り露領ニコライスクに漂著して病死す▽東部西比利亞總督ムラヴキョフ品川灣に入り樺太全部を露領と爲さんとす我應ぜず▽蝦夷地の内を割いて奥羽六大藩に賜ふ
二四二八	同二十年	露國船將プロウニンを國後に捕ふ	二四三一	同十一年	龜田丸ニコライスクに航す▽樺太シツカに鰯漁場を開く
二四二九	同二十一年	蝦夷地を松前藩に還し與ふ	二四三二	同十二年	竹内下野守露都に至りて樺太境界を談判す
二四三〇	同二十二年	高田屋嘉兵衛貿易の嫌疑を以て捕へらる	二四三三	同十三年	松川辨之助等を樺太直場所差配を免す
二四三一	同二十三年	東蝦夷地地震起る	二四三四	同十四年	五稜郭成る
二四三二	同二十四年	奥羽飢饉流民北渡する者多し	二四三五	同十五年	樺太在住岡本文平樺太北部を巡る
二四三三	同二十五年	國後、根室、厚岸大震▽露人擇捉に來り我漂民を送還す			

二五八	一八六	慶應二年	楠苗の露人我が官吏を拘囚す。小出大和守露都に到り樺太境界を談判す。
二五七	一八七	同三年	茅沼炭山を開く。露人樺太南岸トウブツに據る。
二五六	一八八	明治元年	箱館裁判所を置く。改めて函館府とす。小樽内に於て博徒等一揆を起し捕へられ首魁は梟首せらる。樺判官岡本監輔農工民二百名を募りて樺太に赴任す。幕府の脱走軍榎本釜次郎等開陽艦以下を率ゐる鷺木に上陸す。清水谷知事等青森に遁る。脱走車福山城を陥る。
二五五	一八九	同二年	開拓使を置き大に拓殖を計畫す。蝦夷を改めて北海道と稱し國郡を分つ。官軍海路乙部村に上陸し江差福山を回復す。箱館港内外に於て海戦す。五稜郭の脱走軍榎本釜次郎等降服す。東久世通禧開拓長官に任じ御沙汰書を賜はる。場所請負人を廢す。
二五四	一九〇	同三年	樺太開拓使設置(四年北海道開拓使に併す)。黒田清隆洋行、翌年ケブロン等を雇聘して歸る。
二五三	一九一	同四年	札幌市街を經營す。東久世長官侍從長に轉ず。函館常警町より出火一千二百二十三戸焼失す。
二五二	一九二	同五年	開拓創業費として兌換券二百五十萬圓發行。函館外四支廳を置く。札幌函館間電信成る。郵便法を施行す。十二月三日太陽曆を用ひ此日を以て六年一月一日とす。

二四六	一八六	明治十九年	三縣一局を廢し北海道廳を置き拓殖の規模を擴張す。岩村通俊道廳長官に任ず。殖民地選定に著手す。官行諸工場本年より漸次民業に移す。
二四七	一八七	同二十年	水産税則を改正して産物出港税を廢止す。
二四八	一八八	同二十一年	岩村長官元老院議員に轉じ屯田兵本部長陸軍少將永山武四郎長官を兼任す。
二四九	一八九	同二十二年	上川に離宮豫定地設定。北海道炭礦鐵道會社創設。十津川罹災民移住。空知上川間道路全通。
二五〇	一九〇	同二十三年	北海道製麻會社開業。上川網走間道路全通。
二五一	一九一	同二十四年	渡邊千秋長官に任ぜらる。北海道廳官制改正。
二五二	一九二	同二十五年	北垣國道長官に任ず。室蘭及び夕張間鐵道開通。札幌大火。北海道物産共進會を開く。
二五三	一九三	同二十六年	小包郵便を開始。郡司成忠報效義會を組織し北門警備として千嶋國占守島に移住す。
二五四	一九四	同二十七年	根室大震。小樽大火。
二五五	一九五	同二十八年	第七師團設置。根室大火。函館小樽に電燈點火。
二五六	一九六	同二十九年	小樽大火。北海道鐵道敷設法發布。函館大火。原保太郎長官に任ず。
二五七	一九七	同三十年	小樽築港著手。安場保和長官に任ず。北海道廳官制を改正し支廳を置く。北海道土地拂下規則を廢し國有未開地處分法を發布す。根室大火。

札幌小樽間電信線を架す。函館大火焼失一千三百四十四戸。渡島西部の漁民暴動。屯田兵創設の議決す。其豫算六十八萬圓とす。

樽前山及び惠庭山噴火。黒田清隆開拓長官に進む。開拓使出使榎本武揚を露都に遣し樺太境界の談判をせしむ。

樺太島と久里留とを交換す。屯田兵を置く。樺太土人八百四十一名を宗谷に移し後石狩の對雁に移住せしむ。

聖駕函館に臨幸せらる。管内大小區劃を定む。北海道地租を地價百分の一と定む。

函館小樽札幌等にコレラ病流行死者九十三名。

漁業資本貸與規則を設く。幌内炭山開坑。

大小區劃を廢し郡町村を編制す。函館大火。

飛蝗發生。樺戸集治監設置。手宮札幌間鐵道開通。

聖駕御巡幸あらせらる。北海道官有物の拂下の紛擾あり。小樽大火。

西郷從道開拓長官に任ず。長官縣治及事業維持の方針を上申す。根室支廳舎焼失。開拓使を廢し三縣を置く。

農商務省北海道事業管理局を置く。

飛蝗滅亡。

杉田定一長官に任ず。砂川旭川間鐵道開通。秋大洪水あり。園田安資長官に任ず。

三區に區劃を施行す。北海道拓殖銀行設立。

大野村外十五町村に一級町村制施行。

北海道會法並に北海道地方費令發布。道路橋梁排水工事の十年計畫成る。

札幌村外六十一町村に二級町村制施行。はじめて本道より衆議院議員を選出す。

衆議院議員選舉。小樽區大火。小樽區手宮町大火。

露船數次近海に出没す。第七師團出征。小樽大火。小樽函館間鐵道全通。

樺太南占領。樺太民政署設置。

第七師團凱旋。樺太漁場競争入札施行。北海道物産共進會を札幌に開く。篠路村外七十一町村に二級町村制施行。樺太境界劃定の會議を小樽郵船會社支店樓上に開く。河島醇長官に任ず。

札幌區函館區大火。釧路旭川間鐵道開通。札幌農學校帝學大學となる。樺太民政署を廢し樺太廳設置す。

浦河支廳警察署等焼失。廳立感化院設立。

北海道廳舎焼失。韓國皇太子殿下北海道へ御來遊。南尻別村外十八町村に二級町村制施行。江別外八町村に一級町村制施行。

1930	1910	明治四 十三年	有珠山大噴火す、十五年計畫案成る、河島長官薨去、小樽岩内壽都三支廳を廢止し後志支廳を置く、根室開港場となる、岩内港防波堤竣成、深川留萌間鐵道開通、樺太神社創建官幣大社に列せらる、樺太廳豊原、大泊、真岡、久春内、敷香に支廳を置く、石原健三長官に任ぜらる、小樽手宮大火、皇太子殿下御巡啓あらせらる、小樽高等商業學校創設
1921	1911	同四十 四年	網走線鐵道開通、岩内小澤間輕便鐵道開通、恩根内音威子府間鐵道開通、浦河支廳焼失、函館大火、夕張炭礦爆發、山之内一次長官に任ぜらる
1923	1913	同四十 五年大正 元年	山之内長官内閣書記官長に轉じ中村純九郎長官に任ぜらる、函館大火、上磯函館間輕便鐵道開通、瀧川富良野間鐵道開通、凶作
1924	1914	同三十 三年	旭川區制實施さる、西久保弘道長官に任ぜらる、夕張炭山若銅炭礦爆發人員死傷多し、留邊藥下生田原間輕便鐵道開通、萬字輕便鐵道全通
1925	1915	同四十 四年	俱知安外十箇町村に一級町村制、篠津外十一箇町村に二級町村制を施行す、下生田原社名淵間鐵道開通す、俵孫一、道廳長官に任ぜらる
1926	1916	同三十 五年	鐵道一千哩記念祝賀會を札幌に開く、函館大火、楓登川間社名淵上湧別間鐵道開通す
1927	1917	同三十 六年	釧路厚岸間釧路濱釧路間鐵道開通
1928	1918	同三十 七年	室蘭區制實施さる、開道五十年記念博覽會を札幌に開く

1928	1918	昭和 三年	普通選第一回道會議員選舉、長輪線開通、秩父宮殿下御來道、大樹村廣尾村より分村
1929	1919	同四十 四年	樺太惠須取に山火起り附近山林市街に延焼、一千餘戸を焼失、駒ヶ岳爆發損害甚大、池田秀雄長官に任命さる、利別外五村に一級町村制施行、農業調査施行、熊牛村を標茶村と似瀧村を穂別村と村名改稱す、高松宮賀陽宮殿下御來道
1930	1920	同四十 五年	國勢調査施行、第三回労働統計實地調査施行、普通選第二回衆議院議員選舉、植別村を羅臼村と村名改稱す
1931	1921	同四十 六年	拓殖博覽會を札幌小樽に開く、凶作、藻岩村外一村に一級町村制施行、士幌村より上士幌村分村、静内村を静内町と改稱す、佐上信一長官に任ぜらる
1932	1922	同四十 七年	余市町大火二百八十六戸焼失、渚滑村より下渚滑村分村、辨邊村を豊浦村と改稱、浦河支廳を日高支廳、河西支廳を十勝支廳と改稱、空知礦爆發、澄宮殿下御來道、古丹別、幌間鐵道開通、全道凶作、添牛内、朱鞠内、石北線全通、全道凶作、添牛内、朱鞠内、廣尾間鐵道開通、樺太の大時化、長濱村で漁夫四名、多蘭泊で三名溺死、泊居、落合方面水害、真岡方面風害、内幌村大火、五十餘戸焼失
1933	1923	同四十 八年	釧路市の火事二十三戸焼失、日高釧路沿岸地方海嘯、帶廣町に市制施行、水産物検査道營、余市町大火八百八十二戸焼失、小樽市の火事二十四戸焼失、遠輕村大火五十三戸焼失、閑院宮春仁王殿下、同妃殿下北海道

笠井信一長官に任ぜらる、龜田村外十五町村に一級町村制、法華外十六箇町村に二級町村制施行、厚岸厚床間鐵道開通

釧路區制實施さる、第一回國勢調査施行、下川上興部間鐵道開通、厚床西和田間鐵道開通、北海道帝國大學に醫學部を置く

宮尾舜治長官に任ぜらる、根室鐵道開通、函館苦小牧札幌大火、名寄中湧別間鐵道開通

攝政宮殿下御巡啓あらせらる、八月札幌外五區に市制施行、音威子府稚内間鐵道開通

琴似外二十四町村に一級町村制施行、戸長役場廢止、長萬部靜狩間鐵道開通、渚滑線石北線旭川上川間鐵道開通

北海道樺太間連絡船開始さる、札幌外六町村に一級町村制施行、上川外四村に二級町村制施行、網走斜里間鐵道開通、第一回労働統計實地調査施行

生田原外一村に二級町村制施行、中川健藏長官に任ぜらる、問寒別幌延間輪西伊達紋別間鐵道開通、第二回國勢調査施行、貴族院多額納稅議員互選施行

失業統計調査施行、凶作、天鹽線全通、高松宮殿下御來道、十勝岳爆發損害甚大

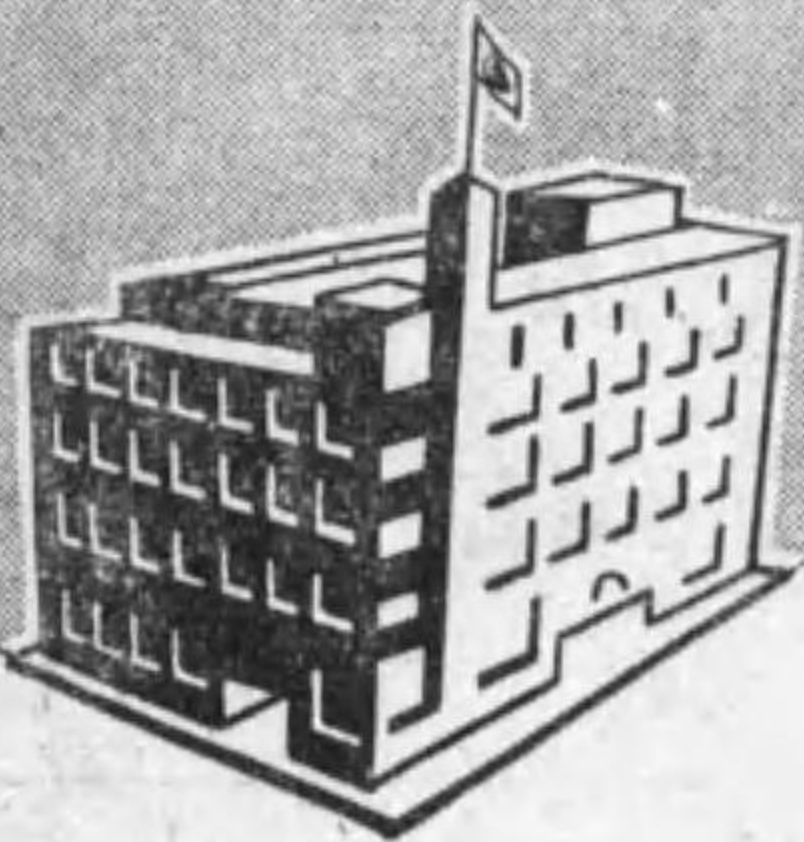
澤田牛麿長官に任ぜらる、温根別村に二級町村制施行、普通選に依る第一回衆議院議員選舉、第二期拓殖計畫樹立、第二回労働統計實地調査施行、人舞村を清水村と改稱す

樺太御視察、本別村、新得村に町制施行、美唄川、赤川、空知川等氾濫、新篠津村、北村方面浸水、留別村沖で靜瀬覆十五名溺死、百一勇士の遺骨原隊に還る、松野尾、米山兩枝隊出征、樺太の山火被害六千町歩、李玉垣殿下北海道御視察、上富良野村の火事停車場外十四戸焼失、函館市の火事二十八戸焼失、樺太東海岸の山火千五百町歩及び民家四十五戸を焼く、東伏見宮周子大妃殿下北海道、樺太へ御成、旭川及び札幌部隊の一部凱旋、洞爺湖温泉町の火事二十二戸焼失、斜里村の火事四十六戸焼失、伏見宮博英王殿下北海道御視察、留萌築港竣工祝賀會、札幌飛行場竣工、旭川放送局開設、根室町の火事三十四戸焼失、政治村が壽都町へ合併、小樽米穀事務所設置、梶川、丸山兩枝隊凱旋、札幌、青森間の郵便物搭載試験飛行、伊達町の大火十二戸焼失、標津線厚床、西別間鐵道開通、椴前山爆發、日高線靜内、日高三石間鐵道開通

全日本學生スキー大會、釧路市の火事十九戸焼失、千島阿頼度一ノ渡沖に新噴火島を發見、第七師團管下在郷軍人聯合支部大會を札幌市に開く、秋山枝隊渡滿、早速部隊を札幌市に開く、杉原本部隊、永見部隊、鈴木部隊、大賀部隊等壯途につく、平田部隊、青砥枝隊、高嶺特殊枝隊、坂本枝隊、旋、奥藤枝隊、高森特殊枝隊、菅塚枝隊、勝又枝隊、凱旋、平田凱旋部隊へ優渥なる聖旨傳達、杉原本部隊第二陣高木部隊並に小田嶋特殊部隊渡滿、黒岩部隊以下滿洲へ向ふ、廣尾村に雪崩あり即死九名、重傷

五名、輕傷十數名▽函館大火災燒失戸數二萬六千六百餘戸、慘死者二千餘名、負傷者三千餘名▽御救恤金を御下賜▽徳大寺侍從を御差遣▽札幌村の一部札幌市へ併合▽中湧別村火事六十三戸燒失▽函館市火事六十七戸燒失▽北白川宮永久王殿下北海道御視察▽皇太子殿下御降誕奉祝天覽武道大會に樺太廳警察部柔道教師五段大谷晃氏優勝▽報國機北海道號命名式を小樽港に舉行▽國際女子競技大會(ロンドン)へ北海道から北海高等女學校中村勝子嬢が遠征▽北支へ交代派遣の勝山、松岡兩部隊出發▽久通宮朝融王殿下阿寒方面御探勝▽清水、小林

兩部隊凱旋▽梨本元帥宮殿下北海道御視察▽長萬部村火事百二戸燒失▽聯合艦隊來航▽高松宮殿下函館市御視察▽標津線西別、中標津間の新線開通▽留萌町火事十六戸燒失▽札幌線中徳富、浦臼間開通▽床丹村火事十二戸燒失▽夕張町火事百九十五戸燒失▽函館湯川球場で日米野球戦行はる▽多志村火事十五戸燒失▽彌生炭礦で瓦斯爆發四十四名死亡▽札幌線新琴似、石狩當別間開通▽江別町火事二十六戸燒失▽内地、北海道、樺太電話開通▽音別村火事十二戸燒失▽小樽市火事十三戸燒失▽大泊港驛燒失



お遊びにお買物に

清新百貨!

皆様の

大國屋へ

小樽市福穂十字街

邦文タイプライター

影武者の威力!!

あらゆる事務所で

影武者ごなつて

縦横無盡に

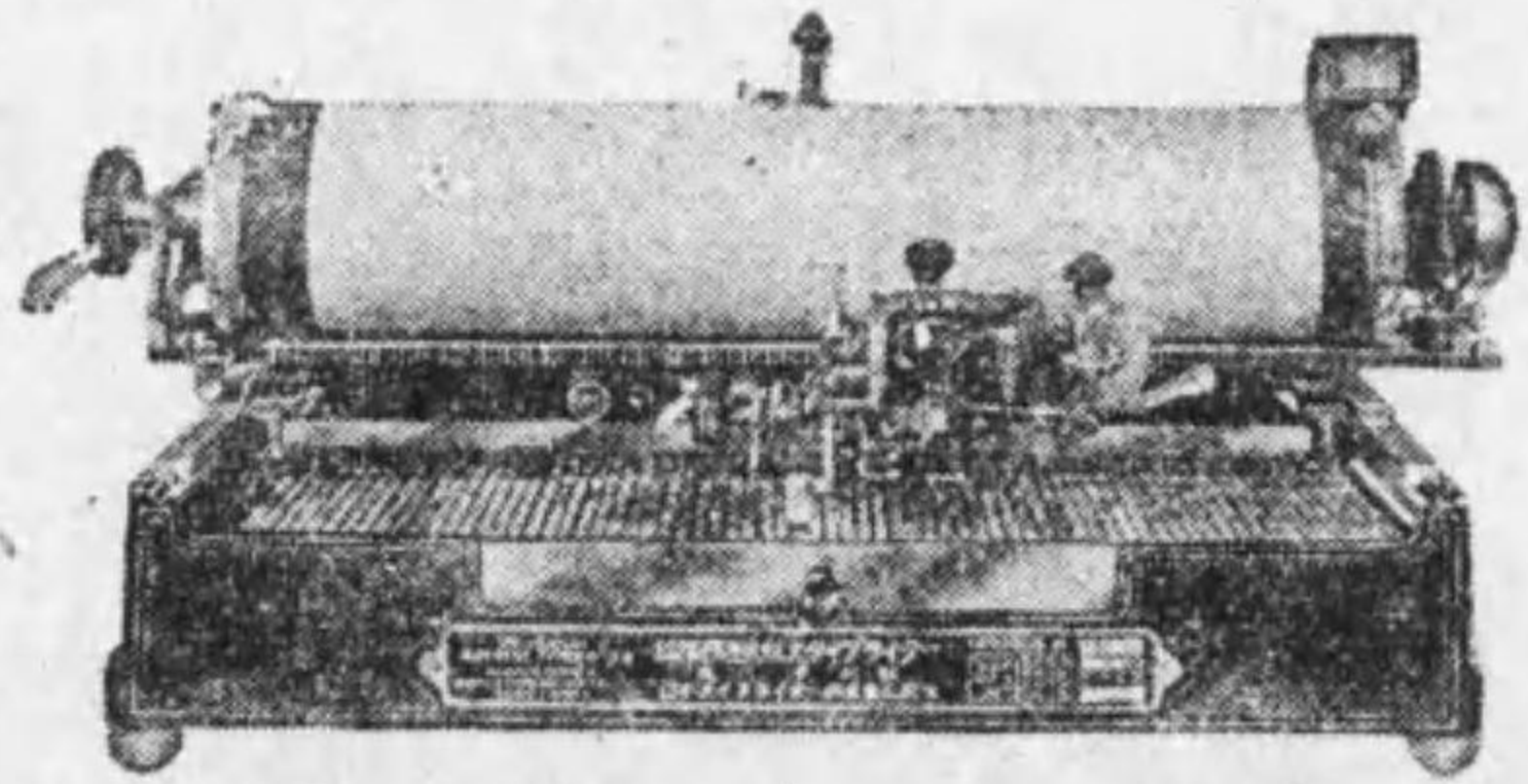
活躍をする

邦文タイプライター

それは底知れぬ

威力を持つてゐます

(型録拜呈)



日本タイプライター株式会社
札幌出張所

札幌市南五條西三丁目一三番九〇
本社 東京支店 大阪 大連 上海 名古屋 京城 新京 静岡



宮内省御用達 味の素本舗 株式会社 錦木商店

昭和十年十一月二十五日印刷
昭和十年十二月一日發行

『北海道樺太年鑑』

定價 金壹圓

小樽市緑町三丁目十三番地

編輯、發行 兼印刷人 櫻井治作

東京市牛込區加賀町一丁目十二番地

印刷所 大日本印刷株式會社

小樽市港町十六番地

發行所 小樽新聞株式會社

電話代表 一五〇〇番
振替口座 小樽 二〇番

不許	複製
----	----



總資金 八千四百萬圓
 發電力 六萬五千五百拾四キロワット

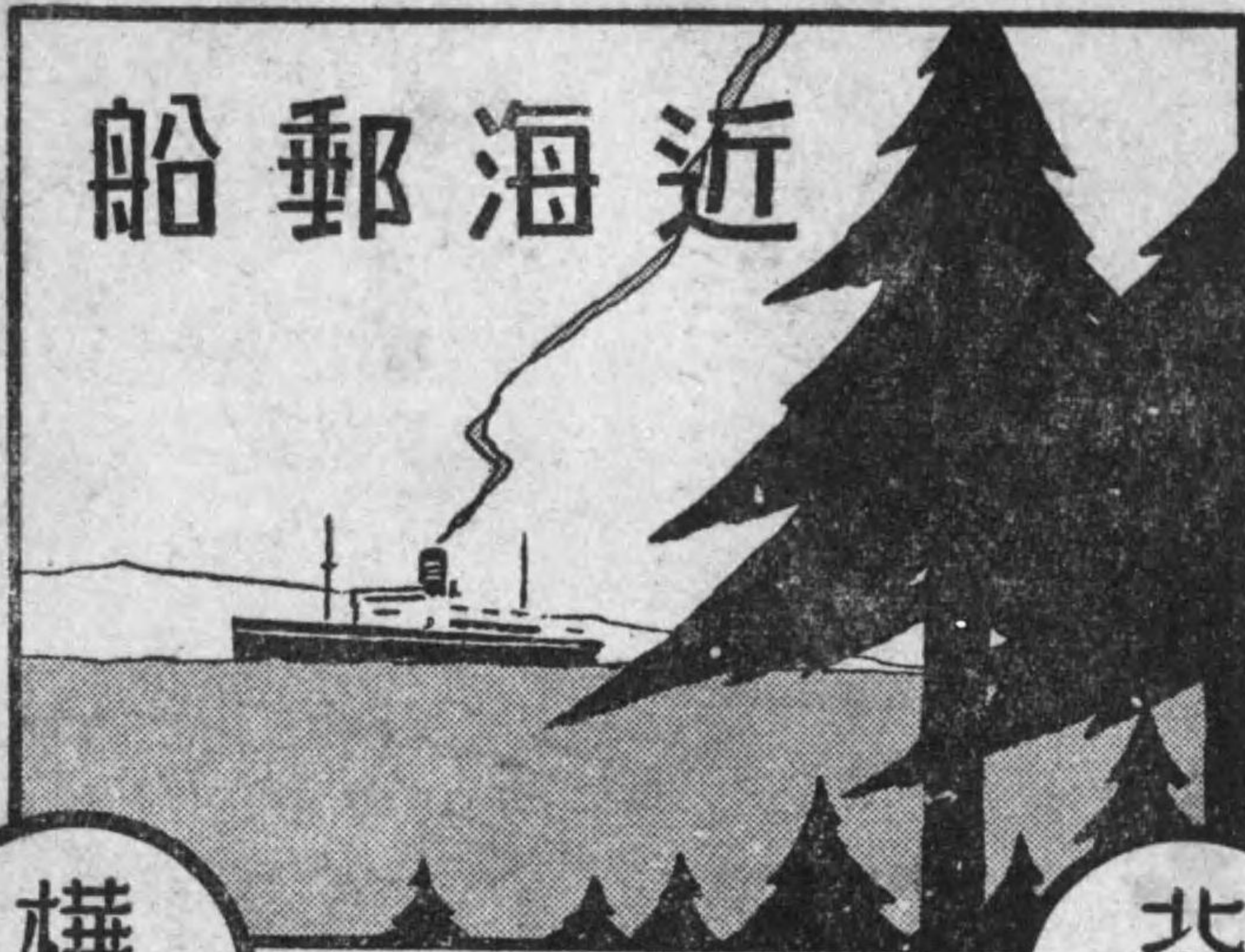
大日本電力株式會社

本社 東京市京橋區銀座四丁目三番地

營業所

岩見澤	帶廣	野付	釧路	旭川	札幌	北海道
事務所	事務所	事務所	事務所	事務所	事務所	
所	所	所	所	所	所	
山形	本莊	能代	大館	秋田	秋田縣	
營業所	營業所	營業所	營業所	營業所	營業所	
所	所	所	所	所	所	

近海郵船



樺太

北海道

小樽關係主要航路

大泊行	眞岡行	惠須取行	敷香行	京濱行	伊勢灣阪神行	關門行
弘前丸	芝園丸	營口丸	田子浦丸	以上命令客船	以上貨物船	以上貨物船
九月六回	九月五回	九月三回	以上命令客船	六月六回	六月六回	三月三回
支店 小樽市手宮町	支店 小樽市手宮町	支店 小樽市手宮町	支店 小樽市手宮町	支店 小樽市手宮町	支店 小樽市手宮町	支店 小樽市手宮町
本店 東京市丸ノ内	本店 東京市丸ノ内	本店 東京市丸ノ内	本店 東京市丸ノ内	本店 東京市丸ノ内	本店 東京市丸ノ内	本店 東京市丸ノ内

資本金 貳千八百萬圓

東京市京橋區銀座四丁目參番地

帝國電力株式會社

取締役會長 穴水熊雄

主たる營業

電燈電力ノ供給
電氣軌道運輸業

札幌市大通



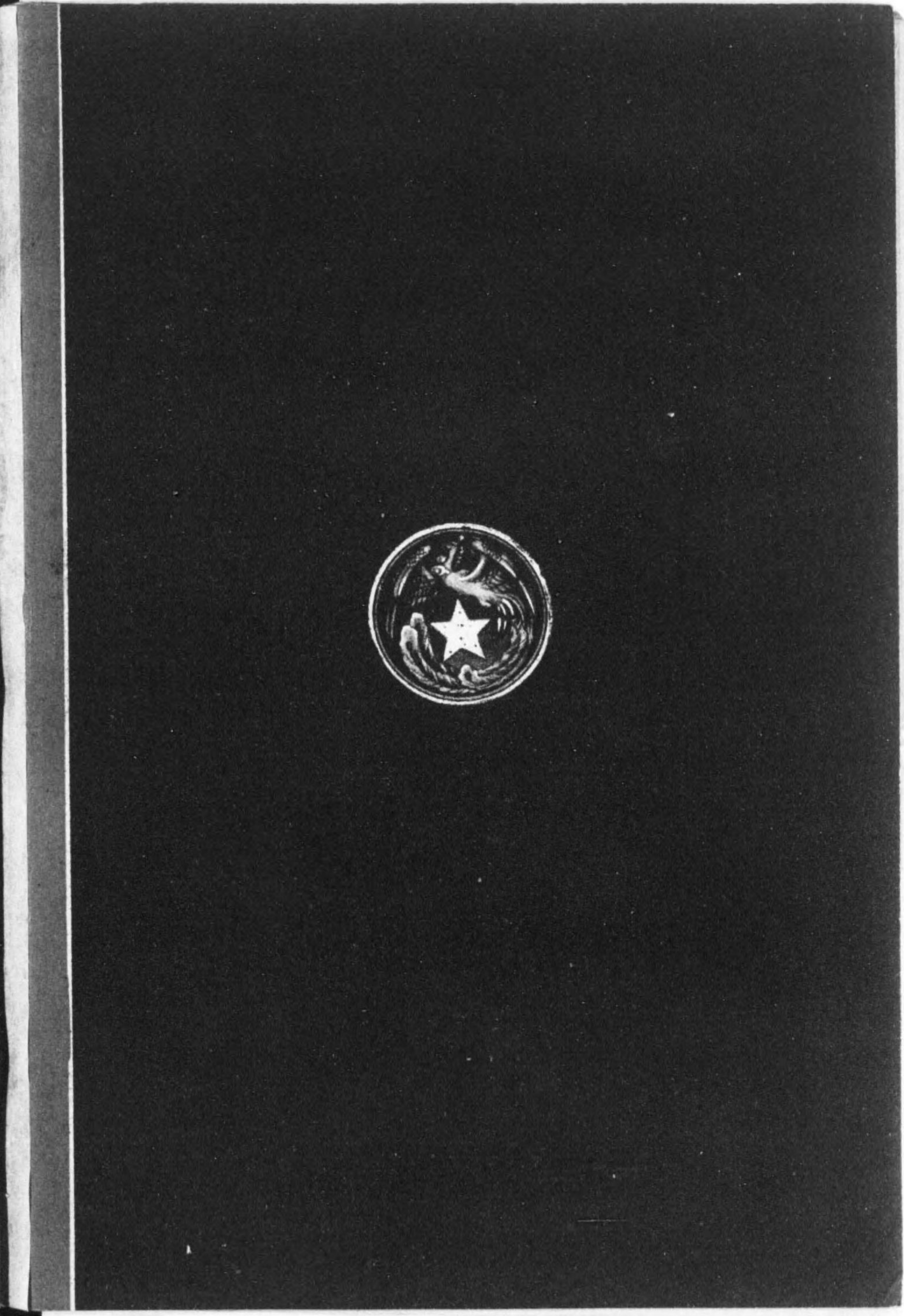
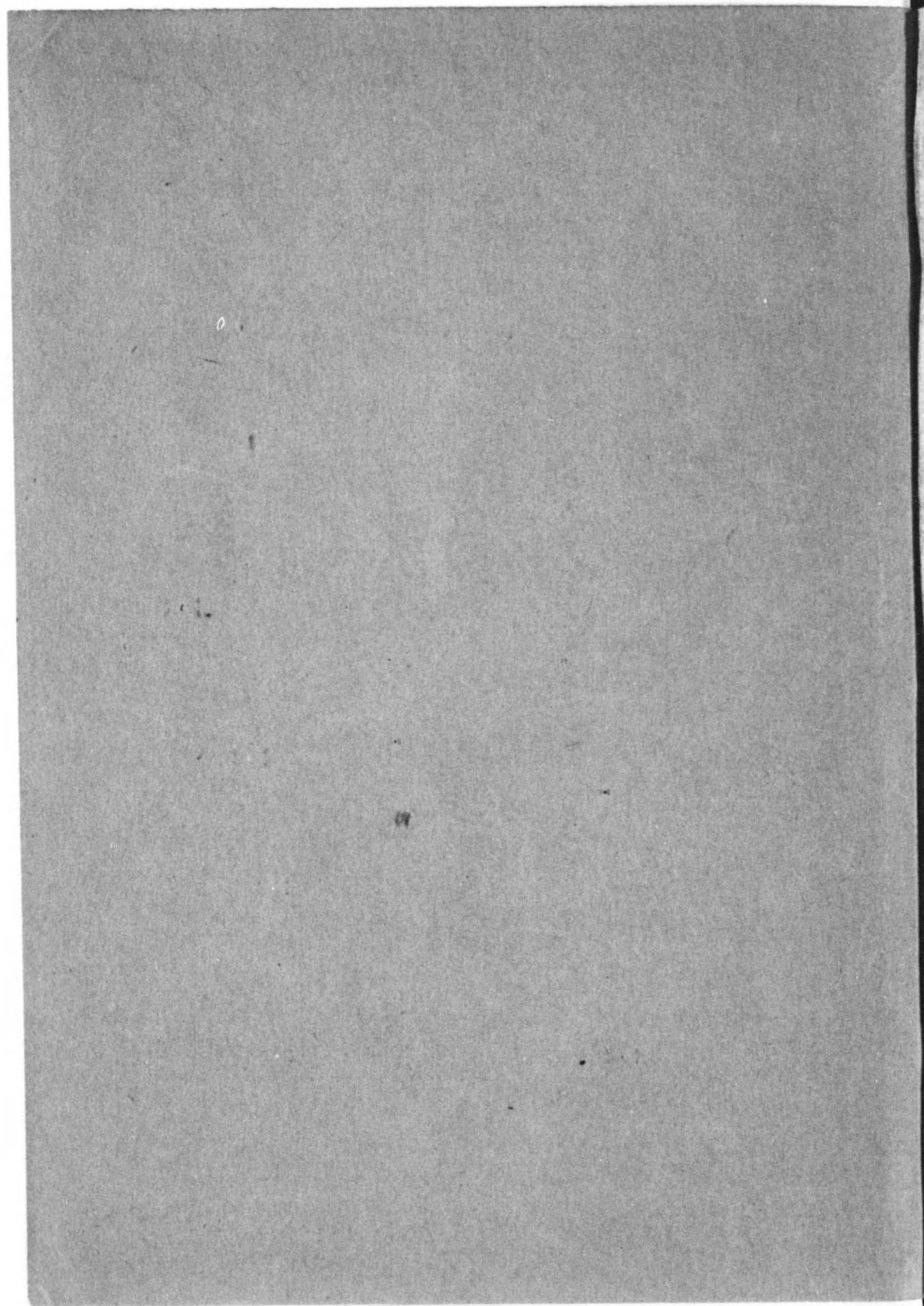
株式會社

北海道拓殖銀行

代表電話 二〇三〇番

支店出張
所在地

東京、(道内)函館、函館松風町、小樽、小樽花園町、
岩内、室蘭、伊達、苫小牧、瀧川、奈井江、下芦別、
深川、留萌、増毛、羽幌、旭川、富良野、上富良野、
名寄、土別、美深、紋別、稚内、帶廣、芽室、釧路、
釧路北大通、根室、野付牛、留邊蘂、遠輕、網走、
斜里(樺太) 豊原、落合、知取、大泊、真岡、本斗、
野田、泊居、留多加、敷香、惠須取



144
1004

終